

生物基礎の傾向

はじめに

高校で学ぶ生物学は、範囲の広い、そしてたいへん深い内容を含んでいます。

それは、皆さんが大学で医療系の科目を受けるときの土台になります。さらに、皆さん自身が、つまりヒトが「自然界のなかで生きている」ということを理解するきっかけになります。皆さんの持っている『生物基礎』の教科書を読み、基本を確かめてください。上で述べた内容を、書き手が盛り込んでくれています。それに気付くことが、入試対策の出発点になり、大学の勉強に直結していきます。

傾 向

本学の生物基礎の入試問題は、生物基礎の全範囲をバランスよく出題します。

日本語の文章を、その文脈を理解して読む力も要求されます。生物学でも、1つの単語の意味が、前後関係によって変わりますし、この生物用語には、この動詞を使う、というような約束事があるからです。さらに、図やグラフを理解する力も必要です。文字だけ単語だけではなく、具体的なモノの形を知っていること、モノとモノとの量的な関係をわかっていることが、大切だからです。

1. 解答方法：マークシート選択式です。
2. 分量：大問5題
3. 内容：『生物基礎』の、生物の特徴・遺伝子・体内環境の維持・バイオーム・生態系の全体から、かたよりなく様々なテーマを出題します。特に重要なテーマは、繰り返し出題します。
4. 形式：空欄補充問題（つまり穴埋め問題）、語句の正誤判定問題、文の正誤判定問題、簡単な数値や計算を扱う問題などを出題します。

ポイント

生物が生きている状態では、複数の事柄が互いに関係しています。1つ1つの単語を暗記する学習は必要ですが、その次に、肝臓なら肝臓全体、バイオームならバイオーム全体、1つの単元の全体を思い浮かべてみましょう。「その単元で結局何を勉強したのか」を考えることで、より広くより深く生物学がわかってきます。